

開会セッション

松本光朗センター長（森林総合研究所 REDD 研究開発センター）

Day 1 - 1	
• Opening Session	– Back ground and objectives
• Session 1	– Results of COP19 and the Warsaw framework for REDD+
• Session 2	– Presentations on SFM and REDD+ were given from three viewpoints of practice, science and society.
	– SFM and REDD+ are related tightly. Practice and experiences of SFM can enhance REDD+ goals, and also framework and activities of REDD+ can enhance SFM goals.
	– Science on ecosystem is important to understand and manage SFM and REDD+, and socio-economic consideration including participation of local people and communities is required for implementing them at local levels.

まず、簡単に1日目の振り返りを行いたい。冒頭のオープニングセッションでは、主催者側からご挨拶で、このセミナーが持続可能な森林経営持続可能な森林経営と REDD プラスの二つの関連性にテーマを絞って議論しているという目的を確認した。

セッション1では、UNFCCC（国連気候変動枠組条約事務局）の Ms. Jenny Wong から2013年11月にワルシャワで開かれた COP19 の報告が行われた。一般的には COP19 は低調だったという報道がされているが、REDD プラスにおいては非常に大きなステップが得られた。そこでの七つの決定は、ワルシャワ枠組みという名前で統合されている。これはカンクン合意に続く REDD プラスの新しいステップになるだろう。

セッション2では、まず持続可能な森林経営と REDD プラスの関係を振り返り、両者を協調的に深めていくという話がなされた。三つの講演では、それぞれ違った角度と専門性から講演がなされた。まず、持続可能な森林経営のこれまでの実践と経験、そして自然科学的視点からの持続可能な森林経営の紹介があった。続いて、実際に REDD プラスあるいは持続可能な森林経営を地域で実施する場合に、地域社会という単位、あるいはそこに住む人々との協調に関する課題と提言があった。

三つの講演における共通点は、持続可能な森林経営と REDD プラスは非常に密接に関係しているということである。持続可能な森林経営のこれまでの経験や実践は REDD プラスの進行を加速させるものであり、逆に REDD プラスのフレームワークや活動は、同時に持続可能な森林経営を前進させることができる。このように、双方から協調的に高めていくことができるという点が非常に印象的であった。そして自然科学的知見からは、生態学の考え方が持続可能な森林経営や REDD プラスを理解し、実行していくために不可欠であること、また、地域での実践においては地域社会の参加など社会経済的な考慮が重要であるということが示された。

Day 1 - 2

- Session 3
 - Presentations in Session 3 highlighted importance of data/information, especially monitoring for both SFM and REDD+.
 - Also experiences of national level monitoring, new techniques of remote sensing for forest monitoring and new methodologies for estimation of carbon benefits were shown.
 - These activities will facilitate the readiness phase in host countries.
- Session 4
 - Presentation in Session 4 reported experiences on SFM and REDD+ in India and Zambia.
 - India challenges to promote strong forest policies and implementation for SFM and REDD+. Zambia promoted REDD+ activities in including drivers, MRV, governance and roadmap towards National REDD Strategy.
 - Lessons learnt from the experiences were shown in these countries.

セッション3の講演は、技術やデータに着目した講演もので、特にモニタリングの重要性が強調された。これまでの国レベルのモニタリングの経験や成果、リモートセンシングの新しい技術についての事例紹介があった。リモートセンシングによる解析結果の講演では、国という大きなレベルでそれを適用させるために新しい技術の導入が必要であるということが実践から示され、それを解決するための方法が紹介された。また、カーボンベネフィットを評価する新しい方法として sCreen が紹介された。こうした技術やデータに関する取り組みに対して、ホスト国の準備段階（フェーズ1）を促進していくという共通理解が得られた。

セッション4では、国レベルでの実践として、インドとザンビアからの経験が報告された。インドでは、持続可能な森林経営や REDD プラスの考え方を尊重した森林政策が強力に進められていることが報告された。また、ザンビアでは、UNFCCC の議論にあるドライバーや MRV、そしてガバナンスといった観点から REDD プラス活動が進んでおり、国家 REDD 戦略のためのロードマップが開発されていることが報告された。

これらの講演は、これから政策を決めていく国にとって非常に良い知見になるだろう。成果だけでなく活動のプロセスも同時に有効であるということを知ることができた。しかし、最後の議論では、政策決定とその実行はまた別であり、実行することもまた非常に難しいのだということが強調された。

Day 2

- Session 1
 - Lessons from REDD+ readiness and demonstration project implementations and linkages with SFM
- Session 2
 - Moving from local experiences to national implementation. SFM at different scales. Carbon accounting and registering
- Session 3
 - Thinking from broader perspective : Landscape approach
- Panel Discussion
 - The role of SFM in REDD+ implementation: Enabling environments, opportunities, and synergies.

2日目は3つのセッションとパネルディスカッションを準備している。

セッション1では、インドネシアにおける国レベルの準備活動について、インドネシア林業省¹のREDD最高責任者であるDr. Yettiから報告していただく。

セッション2では、新しいREDDプラスのメカニズムについて、VCS²や日本のJCM³という取り組みの報告をしていただく。そこでは、プロジェクトから準国レベルへのスケールアップという点に注目したい。

近年、REDD プラスの問題は森林セクターだけで解決できるものではなく、土地利用計画などランドスケープレベルで考えなければならないという議論がある。そこでセッション3では、ランドスケープアプローチに焦点を当てて講演していただく。

パネルディスカッションでは、各セッションから代表者を1人ずつ選んで議論したい。ここでは、会場からの質問も交えて進めていく。

最後に、各セッションからの報告をモデレーターから私のところに届けていただき、それをもとにコンクルージョンテキストを作成する。今日も熱心な議論が続く1日になると思うが、皆さんには進んでご参加いただき、楽しんでいただければと思う。

¹ <http://www.dephut.go.id/>

² Verified Carbon Standard（自主的排出削減プログラム）：<http://www.v-c-s.org/>

³ Joint Crediting Mechanism（2国間クレジット制度）